

Q I センター

センター長 小林 修三



- 小林 修三 副院長，QIセンター長，腎臓病総合医療センター長，内科統括責任者，検査部長
- 権藤 学司 副院長，副QIセンター長，脳神経外科部長
- 代田 雄大 副主任

2014年のQIセンターの出来事

2014年7月 QIセンター設立

当院では2014年7月1日，QIセンターが開設されました。QIとは医療の原点である安全・安心の確保と医療の質の向上を目指した活動であり，継続したQI活動を組織として病院全体が一体化して運用するために設置された組織形態です。

これに先立つこと2012年10月，我が国で4番目となるJCI (Joint Commission International) 認証を受けました。JCIで求める約1,200の項目からなる我が国の機能評価をはるかに超える厳しい審査を1週間にわたって受けて獲得した認証です。

このJCIではQPS (Quality Improvement and Patient Safety) というストリームがあります。まさにJCIの根幹をなす重要事項が並んでいます。さらに，病院が健全財政によって効率よく運営され，経営者一同が透明性を確保しつつガバナンス（統治）とリーダーシップによって（JCIではGLD：Governance and Leadership）こうした医療の根幹をなすQI活動を支援すべきであるとの大きな認識のもと，病院としてQIセンターが設立されました。

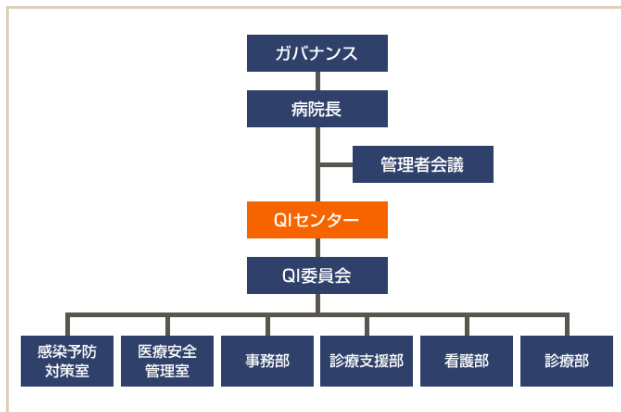
こうしたQI活動がJCIの如何に関わらず医療界はもとより，社会のあらゆる企業が求められる基本的で重要な「質の向上」を目指す活動であることに論を待ちません。

まずはQIセンターとして病院全体が取り組むWide Indicatorを決定しました。なにより，測定可能な指標に基づかなくてはなりません。まずは，現状を把握し（横断的検討），この後に毎年の変化を見ていく必要があります（縦断的検討）。また，他の施設との比較によって自施設の状態がどうかを客観的に把握することも重要です。

こうして医療業界全体から不透明な状況をなくし病院運営の健全化を図って行こうとする我が国の医療のあり方，ひいては日本社会全体の未来を決定づけていく重要な活動です。



QIセンター関連図



品質改善活動における組織構造

2014年8月 病院全体指標（Wide Indicators）の決定

当院の主たる目標を念頭に、センター長の諮問機関として医療の質に普段から積極的に発言されている関係者をお招きしてご意見を聞いた上で、病院の決議機関としての病院運営者による管理会議に諮って以下の5項目が決定しました。

1. Sentinel Event 発生件数の低減化
2. 転倒転落発生件数の低減化
3. Surgical Site Infectionの低減化
4. 退院後6週間以内・1週間以内の予定外再入院率の低減化
5. 入職3年以内の予定外離職率の低減化

このほかに各部署から部門別のQI indicatorが提出されています。

今後はこれらのIndicatorを如何に改善させていくかの実績が求められます。それぞれのIndicator毎にワーキンググループを作って、さらには現場でのプロモーターの役割を果たす人材を登用しつつ実績を作っていくことが課題となります。

QIプロモーター構成（2014年8月時点）

- Sentinel Event 発生件数の低減化
ワーキンググループリーダー
森 医師（脳卒中診療科部長）
メンバー 8名
（医師4名，看護師3名，事務1名）
- 転倒転落発生件数の低減化
ワーキンググループリーダー
鶴川 看護師（病棟師長）
メンバー 5名
（医師2名，看護師3名，薬剤師1名，療法士1名）
- Surgical Site Infectionの低減化
ワーキンググループリーダー
佐藤 医師（感染管理対策室医長）
メンバー 9名
（医師5名，看護師3名，臨床検査技師1名，管理栄養士1名）
- 退院後6週間以内・1週間以内の予定外再入院率の低減化
ワーキンググループリーダー
北川 医師（総合内科部長）
メンバー 6名
（医師2名，看護師3名，事務1名）
- 入職3年以内の予定外離職率の低減化
ワーキンググループリーダー
松本心理士（臨床心理士）
メンバー 7名
（看護師2名，薬剤師1名，臨床工学技士1名，診療放射線技師1名，事務2名）

2014年9月 2014年QI大会の開催（第3回）

2014年9月12日（金）に第3回目となるQI大会を開催しました。年に一度行われるこの大会は、日ごろ

「患者さんの安全」や「医療の安全のための品質の改善」を目標として行われている様々な改善活動の取り組みと成果を部署ごとに発表し、その内容を院内で共有し評価を行い、次の改善につなげていくための大会です。



2014年QI大会写真

今回は各部署が行っている数多くの改善活動の中から、11演題（診療部から6演題、看護部から1演題、診療支援部・事務部から4演題）が病院管理者により選出されて発表を行い、その後職員による投票が行われました。



発表風景

この発表の中で、もっとも評価が高かったのは転倒転落発生率の推移を調査し、転倒転落発生率低減

のための対策を導き出した看護部の「転倒転落アセスメント」の発表でした。全国でも急性期病院における転倒転落は、骨折や頭部打撲・出血などの損傷を引き起こす危険性が高く、その防止策を積極的に実施していくことが望まれています。このほか救命救急センターでの「トリアージの妥当性」や循環器科の急性心筋梗塞についての治療の内容についてなどが高い評価を得て、12月18日木曜日に表彰されました。



表彰式